



新年のごあいさつと情報誌 200号を迎えて

学長 服部 祥子

明けましておめでとうございます。皆さまお一人お一人、あたらしい思いを胸に、一年の歩みを始められたことでしょう。

カレッジの情報誌「爽風」は今回の1月号で200号を迎えられました。1994年2月に創刊されて以来26年間、たゆみなく号を重ねて来られた成果です。「爽風」は情報誌編集委員会が中心になり、企画から原稿作成、写真撮影、編集まで精力的に進め、毎号毎号心をこめて作られ、そこには全学生はもとより、グループわや事務局の皆さま方の協力もありました。学習内容やサークル・ボランティア活動等の情報提供や、表紙の絵、イラスト・俳句・川柳の投稿等によって大いに紙面を盛り上げる等、「爽風」はカレッジをあげての大切な絆の役割を果たしてきたのです。私も毎号楽しみにして読ませていただいています。

詩人の高村光太郎は「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」と詠みました。道は自らが切り開くものという決意でしょう。私たちのシルバーカレッジも前方に道も何もないところに創設され、26年間皆で手を取りあって歩んできました。そして今私たちの後ろに道はできました。その道の軌跡を鮮明に書き記して下さったのが200回、号を重ねた「爽風」なのです。何と喜ばしいことでしょう。

今年1年、カレッジがどんな歩みをするのが楽しみです。カレッジの関係者全員が一丸となって元気に歩き、その後ろに皆で歩いた豊かな道が新たにできますよう、祈っています。



あけましておめでとうございます

事務局長 丸一 功光

令和になって初めての新年を迎え、思いも新たに一步を踏み出されていることと思います。

「微笑めば友達ができる。しかめっ面をすればしわができる。」200年前のイギリスの女性作家、ジョージ・エリオット（本名：メアリー・アン・エヴァンス）の言葉です。シルバーカレッジの楽しい学園生活の根っこの一つは、このメアリーの言葉にあるのではないのでしょうか。

入学して初めて出会った人とともに、授業・グループ学習やクラブ、ボランティア活動、それに学園祭などを通して、これまでとは全く別の新たな人間関係が築かれ卒業後も続く仲間ができることだと思います。

情報誌「爽風」は、このような学生の生き生きとした学園生活を活字と写真で表現するシルバーカレッジの歴史の証人であり語り部です。1994年2月の創刊から200号の発行を迎え、本当におめでとうございます。これまでの情報誌編集委員会の皆様のご努力に心から敬意を表しますとともに今後のご活躍をお祈りします。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



「神戸市シルバーカレッジ情報誌」200号に寄せて

神戸市保健福祉局長 小原 一徳

「シルバーカレッジ情報誌」200号の発行おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

毎号、充実した記事や写真が掲載され、学生の皆さまの生き生きとした学生生活の様子が伝わってまいります。

情報誌の発行過程は全て学生の方々に担ってられるとお伺いしました。1994年2月の創刊から現在に至るまで、多くのご苦労があったと思いますが、途切れることなく受け継がれてきたことは本当にすばらしく、第200号を迎えられるまでの長きにわたり、発行にご尽力されている関係者の方々に対しまして、深く敬意を表します。

さて、ご存じの通り、2012年に総人口が減少に転じ、高齢化も急速に進んでいます。このような人口減少社会の中、超高齢化を迎えておりますが、地域社会が元気で生き生きとあり続けるためには、健康寿命の延伸や元気な高齢者のさらなる活躍が期待されています。

シルバーカレッジは1993年の開校以来、高齢者の豊かな経験を生かして社会に貢献することを目指し学びあう場として、「再び学んで他のために」という開学精神のもと、地域のリーダーとなる人材の育成に努めています。そこで学び、交流された皆さまは卒業後も「グループわ」の活動などを通じてボランティア活動や地域貢献活動に活躍されており、まさに現在期待される高齢者像を先導していただいていると思います。

今後とも、皆さまが健康で充実した学生生活を謳歌していただくとともに、シルバーカレッジで深めた知識や経験を、積極的に地域のリーダーとして社会に還元していただくことを期待します。

本カレッジ情報誌200号を機にさらなる飛躍と皆さまの益々のご繁栄を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。